

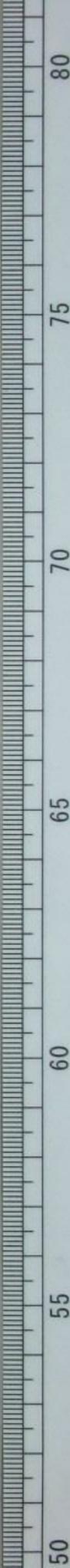
貞丈雜記

膳部  
仍益之部  
類部

七



73  
233  
7





ヒキレト云  
ハホラニキ  
テ入レ物ヲ  
作リタル故  
ノ多クハヒキ  
ヒキレハヒキ  
入ト云ラザ  
テヒキレト  
云ナル合則  
合子ノノ  
職人ノア  
合ヒキレナ  
詞ニハイナ  
カウシテメ  
セシ

胎部

胎部飲食部ト合見ヘシ  
庖下方乃入

一合子ガシともハ胎ハとも云ハハ梳コのコ也コ身コトコ汁コを合コ也コ

胎ハの名也ハ合ハをハ云ハトハ書ハメハ己ハんハけハんハ卒ハハハハ

石ハゴハノハノハノハ也ハトハ云ハ況ハありハあハやハまハ也ハ平ハ四ハ也ハ

りハこハーハまハーハしハ物ハ古ハかハーハ古ハハハめハ己ハんハけハんハ也ハ

卒ハまハハハ平ハまハ己ハげハ物ハのハ代ハりハ子ハ作ハりハるハ之ハつハ不ハさハふハつハ

ふハりハまハ己ハげハ物ハのハ代ハりハ也ハ古ハハハ己ハげハ物ハをハ用ハいハるハ今ハのハ卒ハまハ

つハるハ之ハのハ也ハ子ハ細ハきハ糸ハをハ言ハくハ付ハるハ己ハげハ物ハもハろハをハ

入ハるハをハまハしハるハ也ハ帰ハ入ハ定ハこハーハをハろハとハ云ハ物ハハハ

らけの下よりけおの備を甚よしう形をまひり  
物也本式の膳部ハ皆白木ヲ食おかりけり  
てけおの上よりけをさめ也食おのふより  
て白木のけおももり也

一 每むこし多物主將軍の時代より一也寛永  
年中南蛮国より海より一也その古旧記より多むこの  
るか一今の世のあり一や貴人の前よりハ多むこ  
を汲らぬを礼とするより尤あるよりなり

一 折と云ハ木を折けて給ふ也ゆへ折と云是を折と云  
文明三年二月二十七日而方折る也折る所進上而折三合さす角す日記三合より折  
折し折付るよりハあり折よ今そ甚をして甚と是を行つ之  
折も折り

折花おト  
フ時ハヨリ  
ツモト  
云ナリ

つても折を折付るより一甚より一水の土(水引)をか  
けて後也折川祀云折ハ三献め五献めより一氣而可然ル  
也去 献扱かき時ハ二献めより一氣ルキそくの物ハ箸ハ  
すりすル 折の内ニしらけおきそくを折るハ  
著るにさるまきそくの折きそくを以て也 又折餅より一  
すりするもの志むりをもりけりとき、片持出ル也そ  
志むりハ水引より折を治るを之今時折と云ハ折  
志と是を折付るをも折と志め削り花をよみよこ  
さつ也是ハ古ハ折といひず櫃おと也 折金入の折は  
お入る進物の折は  
一 折よひ折りよは手長のより云後三折に記ス  
一 折りけおのより折きたらと云後折りけの也

海人漢文  
 鐘のハイカ  
 二枚  
 三枚  
 同ノ物  
 出東酒  
 盛故也  
 貞丈  
 名  
 二枚  
 入ルコト

小ぢりより大なるを三つ入る云三つ入より大なる大ぢり  
 と云小ぢり小討一たる名色また三つ入より大ぢり以下  
 三つ入り大ぢり大ぢり三つ入り大なるを三つ入る云五  
 じ入り三つ入り大なるを三つ入る云それより九分入十で  
 入十三分入十五分入まで何れも三つ入り大ぢり大ぢり十五分  
 入り大なるは五つ入り五つ入り五つ入り大なるは  
 酒との時書をもりや出す時用色四紙よりけり  
 とありはけり也

海人漢文  
 塞白界ト

一そくびりよりけり式勝部記に大ぢりよまの信を  
 二ひりよりけり一そく貞衡之をひりよりけり

一あいの物と云りけりあり大なるお書云あいの物とハ  
 二で入り少なり平々よりハ  
 一魚いり云りけり風呂記云通の  
 一盃平之也水上記云へいり云りけりけり  
 いのおよりハ小きりけり也ふりけりけり也  
 手けりこし之極を記して平幸よまをけり  
 けりおをまんぢりのありつむりけりけり  
 ぶらきりけりけりけりけりけりけりけり  
 是の真数を割りてよりけりけりけりけり

へカウ  
 見守り  
 二枚

一あいの物と云りけりあり大なるお書云あいの物とハ  
 二で入り少なり平々よりハ  
 一魚いり云りけり風呂記云通の  
 一盃平之也水上記云へいり云りけりけり  
 いのおよりハ小きりけり也ふりけりけり也  
 手けりこし之極を記して平幸よまをけり  
 けりおをまんぢりのありつむりけりけり  
 ぶらきりけりけりけりけりけりけりけり  
 是の真数を割りてよりけりけりけりけり

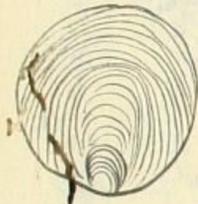
人唐記  
云奥道  
凝蜀ト  
云又台記  
四ノ市金座  
抄を海圖  
之本名  
ギヤウタ  
ノト名

一白うりけと云白くやきつる今もそのうらまやま士佐  
の尾出やまをいふ之をぬくぬく白きうりけ也

一志うりけと云うりけとも云うりけとも云急  
匠(中)ともぎよぶのうりけた云はるその云云を  
出のうりけ也考人是よきも云を云へる平人の  
さやもせず云うりけは匠(中)なれは随分か  
一キ入神也(中)匠(中)のしも日記よあはけうりけを  
考(中)とも云也常のうりけやうりけや

一そのおと云志うりけのこ也是は合意あまた  
後を書きしうり物也(中)考記(中)のわ(中)と云

入るる也是ハ曉の時表ハ不出おそれ中む(中)や  
必おそれハ一故けつ(中)あるもおそれハ殿中(中)もあは  
式書云ぬお(中)のおの畧也(中)是ハ隣ぬ(中)を云  
一うりけのひ移(中)とも乃(中)敵系記(中)云うりけ(中)ひ  
とも(中)軍(中)必(中)軍陳門出(中)とも(中)とも  
前(中)あ(中)の(中)まぬ(中)れ(中)也(中)さ(中)ら(中)る(中)節(中)あ(中)ら(中)る(中)事(中)  
節(中)あ(中)ら(中)る(中)け(中)の(中)底(中)ま(中)る(中)ま(中)き(中)の(中)ぬ(中)る(中)節(中)  
あ(中)ら(中)る(中)事(中)も(中)とも(中)とも



あはけうりけのこ也

供養の四方  
三方ナドミナ  
合ハ石位程  
ノ時カヨミナ  
ルハ仕度言  
用ルナリ又ハ辛  
人ノ益ガミ  
用ルナリ

一 供養の四方  
三方四方供養の扱名也三方四  
方供養おもふは皆はいづこひ也上の巻と下の巻とを  
はきりぐらゝたるおあるはいづこひとて是れいづこひハ  
いづこひ也三方はあををあげしとて三方とて四方はあをを  
あけしを四方とてあをを一つもあけざるを供養と云  
けニホハ何れも同一形也是付ハ御堂の部よありす  
一 三方四方のりよあけしるあをを今ハくもろしと云古ハ  
げん志布しと云げん志布とあををとてその上巻名は  
いづこひ也いづこひとて眼像と書く眼ハ目也目ハ  
あるのゆ也目のくもろしとてその目也目付の目をとて

目の字も読あちのゆあり是と同意也

- 一 供養のりよを公卿と書しる書は供養ノ字本也
- 一 木具と云はつゝ桂の木の白木を依りしるを木具ハ  
木具也三方四方供養も木具也然るも今ハ是付のり  
をくりや木具と云也
- 一 是付を是打とも云おあるは是を是付しる也是付  
乃おあるしりやを思はくは是付是打とて是  
一 おあるは是打とも云おあるは是を是付しる也是付  
るもあり是付のおあるは打おあるは是を是付しる也  
一 是付と云はつゝ





寺の御前のよりあるも付ル也

一 去る物也 菓子など ちとつねよふをさくはる也  
一 ちきねおと云ハもやまむし 麦をもちねおと又せし  
とも云出るもち ちとつねをきぬ ちとつねおと今ハちやせぎ  
むし 麦のちをね又ハ四よとる也

車箱古 一 今の車箱はとらおハ古のむざねをさびしる物成下  
詞 貞明 色ハ之記 車箱ト云事アリ 大永 天文ノ世書ナリ 室町殿ノ世アリシ物ト云  
向ハハ出サレ 物也 又節 用集ニモ 車箱ハエタリ 様常の狂言ニ云ハシト云狂言ハ岩坊ノ狂言の内ガ  
物也 又節 用集ニモ 車箱ハエタリ 様常の狂言ニ云ハシト云狂言ハ岩坊ノ狂言の内ガ

一 一 瓜を糸すすまうをさくして糸すするも 糸  
寸書るもよんえ ちとつねをさくして糸すするも 糸  
串を五寸二三寸丸くけつて一方よかどみへ一めんをさる

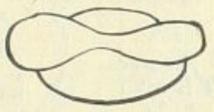
べし三俊一統よまうてう

カサツカニ瓜ヲウリトキベシ和名地う  
ノカサ也 俗ニありトキハマヤニナリ

一 箸の基を云ハしちりけのす也 せ五三ちよの膳を  
て式に膳よ必みちりけは箸をさく也

紫部日記  
ちいさき  
ぬいばすし  
ひそくれぬいばすし  
兼盛集すはしちりけあり  
ちいさき  
ぬいばすし  
ひそくれぬいばすし  
兼盛集すはしちりけあり

箸の基  
再りけ



箸の基こまうを  
ちとつね 形也

一 甲立云ハ七五三の膳をく式に膳よおをもやう

甲立  
是ヨリ下四  
枚ニナリ

小角かちけちよもちのちよ紙よち形を  
けちよありち形を甲立云ハち形ハ  
寺ナリ佛前のよりあるも付ル也

庖丁の家  
料理人の







彩色を施すハ  
繪具膠  
ミカドシヤ  
ニカラビヤ  
ナリ

後世より白木の膳土急ちどを金銀の  
を御り本意をとりうりあひちる者也

一 饗立キヤウダテを以て食物の傍カサリとするより右を云く上古

甲三ノ事  
ヨリ前四枚  
ニアリ又コレ  
下三枚ナリ

食物を柀の葉カサリよりとりて平柏の葉を表し  
一 紙をおけてより物をふる成ナリ一ナリ 形ナリ 下人の儀ナリ

一 破ナリとさすえと云ハ日ナリ白木おのめくは作りか  
ごせぬよりより年南ナリ形ハ丸くも四角三角ナリ  
扇形も板ナリ流ナリ色ナリおせナリふナリ又ナリ  
同一ナリ方ナリ方ナリ同ナリめくナリをナリてナリ子ナリ名ナリ

ろろなどより作り白木より作り一皮切り用て子流ナリ

子流も也さくえと云ハ竹の筒ナリ酒を入く柀ナリせナリと云  
麦休を切てナリをナリ方ナリ上ナリのナリあナリをナリあナリけて

酒を入る也竹ハナリのナリ枝ナリあるナリあナリきナリと云

一 今時の漆ナリ碗ナリの内ナリはナリこナリと云ナリと云ナリ  ぬナリはナリあるナリ物ナリありナリ是

はつナリけナリのナリちナリはナリ傷ナリをナリまナリるナリ形ナリをナリ作りナリちナリ者ナリ也ナリ又ナリつナリぎナリと云ナリ  ぬナリはナリあるナリ物ナリありナリ

はつナリぎナリと云ナリと云ナリはナリ日ナリ付ナリ物ナリのナリ形ナリをナリうナリけナリりナリるナリ也  
廻ナリりのナリ細ナリきナリ糸ナリハナリ日ナリ付ナリ物ナリかナリつナリつナリをナリ入ナリるナリ形ナリ也ナリ  ぬナリはナリあるナリ物ナリありナリ 知

式ナリ乃ナリ膳ナリハナリ食ナリ物ナリをナリ咄ナリ土ナリ急ナリと云ナリ又ナリ物ナリよりナリてナリハナリ白ナリ木ナリ乃

已げぬよも色 土釜の下ニ傷をまじ 漆椀乃具ツツ子コ也  
 形カタシをうけして作りし物あり 大なるさしヤキ子 燧莫カウちと  
 をもちしクも大なるうけしケもりたるを 畧リツしシち物也  
 一 飯イヒを盛シカ子モリ出デるル子 親式の時カハチ土釜ツツは飯イヒをもりけ  
 しまし盛シカをされレ飯イヒもき放ナるル盛シカも盛シカ也今時祝の時ハ  
 椀ワは飯イヒを盛シカ子モリ出デるル椀ワはさく飯イヒ多タ入イるル椀ワはさ  
 盛シカ出デるル及キぶル子也親式カハチの脈イハもりも土釜ツツはさし  
 土釜ハ飯イヒ子モリ持テ食ク物モノ多タ入イるルぬ椀ワは飯イヒ多タ入イるル何ナニも  
子盛盛シカもり子出デるル椀ワはさく飯イヒ多タ入イるル椀ワはさく飯イヒ多タ入イるル何ナニも  
子盛盛シカもり子出デるル椀ワはさく飯イヒ多タ入イるル椀ワはさく飯イヒ多タ入イるル何ナニも  
 一 子コちチもりハ上ウ古コハ木キを南ミナミ北キタ 前マエ目メを用ヨウひしシ也ニはハ洗シ

を令シりテ子コちチ也ニ字ジ法ホウ控コウ選セン物モノ法ホウはハ用ヨウ徑キョウモリの包ツク下ゲハハ傳デンん  
 しシびビてテまマちチむムきキづヅりリ鞘カサちチカカぬヌくクまマきキもモほホくクきキ 包ツク下ゲハハ  
 今イマ右ミダヒはハ上ウ古コハハ南ミナミ北キタはハ削ケりレ也ニよリもモ入イれレ用ヨウれレ也ニ  
 つツみミよヨまマがガ為ナるル後ノチハハ少ウチきキもモりリ也ニよリもモ入イるル字ジ五イ祀ニ  
字字ジがガ 大オホ茶チのノ流リはハまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
子子コをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
 陰カゲをセりリおオのノ一ヒトをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
子子コをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
 一 脈イハを上ウ古コハハ木キを南ミナミ北キタはハ削ケりレ也ニよリもモ入イれレ用ヨウれレ也ニ  
子子コをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
子子コをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル  
子子コをセ第ダイのノまマちチむムきキづヅりリしシよヨまマきキをセばバりリすス行ユキのノやヤもモあアるル

二條盤相記或人云藤訓加波年古柏並用  
飲食を盛るる加波年名又伊勢の神事乃時子  
三河のか大多りもの多神保をきてやるの月  
これをいふものもありけるも本抄略長明伊勢記を  
引て考るせり  
飲食をもちゆをいつて北史といふ書を九十四日本の玉乃  
凡俗を祀しる俗無盤俎藉以楸葉といふり盤俎  
ハ食物を載るるの楸を之楸ハりといふ木也  
西三條 實澄公

一 土器代磁器を用る三光院内府記云木具土器面向之  
スリ石皿モ後  
世ノ物ニ非ス  
天文ノ比既ニ  
大承天文ノ比記セシ  
朱令令席祝儀必用之作塗物器  
平生受用之器勿論ト皆  
朱之上或有紋或ハ手紋  
見エリ

漆落木隨所各用之  
堅固内々ニ文ニル  
青菴 或白茶碗 大臣朝夕之器也

一 切塗物不用之道達院稱各院 禁中所會案内之時自長橋局  
朝夕所用之茶碗密被召寄令受用干大臣規模此々ニ

續古事談卷圓融院大井河市行あり々先少井寺乃  
子納屋自文云納屋下張り四方ニテ  
大入道及坊以の時仰厥まけられり牽炭といふあり々

一 懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事

懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事

筆記云常ハ市懸盤事第一市懸盤事同前仕ハ市  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事

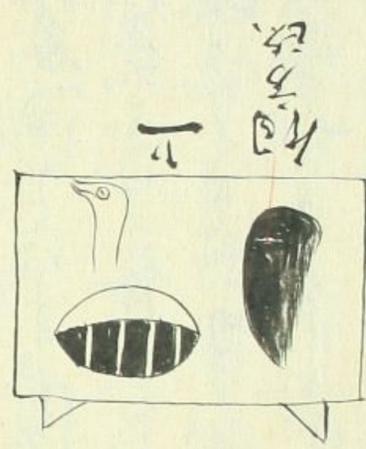
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事  
懸盤乃る三光院内府記云平生朝夕諸家可用此盤事

三卷五十一  
原小御所枕  
多々云々  
不人云々  
何々云々  
まい云々

今ハ切是上云



詞之齋多六個方をわろし一側方と云し一々式より上の方  
 車下右の方より進首左之余の筋下の方より進之村をハ矣  
 目を黄紙にして齋の多れ側方の五(五)と云く



右四糸流献方口付書り  
 見えたり

一心葉乃り右同書云餐膳の四方より多し松花うづ梅お  
 とを伴うてまろくは先を心葉とし之を中院大御多通  
 茂七十賀記主人餐赤木机中書心葉松と見えたり  
其四方に松花をまろく云

様置不血ハ  
 様置三盃ヨ格  
 様置三盃ヨ格  
 様置三盃ヨ格  
 様置三盃ヨ格

一様置乃事<sup>オチキ</sup> 俵氏お徳志ろく子のやきはるは俵(うづ)のき  
 之を細尻抄やキハ盤乃るこま物之 孟母抄 銀楊置也或  
 藥置の盤也四方の膳おとの事也 俵氏一役ぬし(う)を朱  
 置し(ひ)白木を楊置と云引入あり至徳記あり  
抄見たり俵氏ハ  
箕形忍膚が説たり 貞丈按盤置のる之(物)と云ハ 抄(オチキ)おまの物と  
 寸や藥置の盤と云ハ 抄(オチキ)おまの物と云ハ 抄(オチキ)おまの物と云ハ  
 又白木を楊置と云引入也と云ハ 本のおまの物と云ハ  
イレコ  
 入子組入る物と寸やめは説説たりあり又中院通茂  
 以七十賀 三年 記 折敷三枚 様置 又折敷一枚 様置 瓶子  
 一口 様置と見えたり 楊置と見えたり 様置と見えたり 瓶子  
瓶子も様置と見えたり

乃やまきとあるハ銀ノ揚置ノ形を依りし物とすや志ろ  
くみのやまきとあるははやくしとあるをこれにやまきハ置をの  
出ろをいづゆ又按揚を様ハは五字を用じても揚字中  
かへん飲者此れを飲梅を依るを是ハ揚の本を依りて  
揚置と名付り飲梅とて依りて飲梅とて置の各記藥  
置と置後ハ誤るべし

一 ちやじと云ふ字極大草紙の条に云ふが所  
ちやじの中ありとありちやじといふも一合の  
あり今ハ尾州家ありも菓子を置るもちやじと  
云也

### 酒盃飲之部

一 一丈二丈と云を一盃二盃乃るもいふ人ありあや  
ましく何れも吸拍者をも出して盃を守ハ一丈也  
次又吸拍をも者をも出して盃を守是二丈也  
何れもいふ也一丈は終れハ是れは二丈をいふ一丈  
毎瓶子をありあや出也何れもいふは通る也

一 酒を一盃二盃と云ハ今時の人の詞也古ハ一盃二盃とい  
しやうけは二盃入五盃入とてとも三盃入五盃入と

いふ意也

うけけりとのやハあや  
勝部と部と云

一古の秘儀も常也也 蓋し其の略ありけ也ぬり蓋  
とありてハ近代の事也今も其を秘ぬりてくち  
むしすのうらけをもちびくる物也京の銀閣寺  
七賢の蓋とて七つ入子の蓋は晋の七賢の名を討陰の  
志すの蓋あり是ハ東山殿の御意也と申傳ふ是  
しき物あり 東山殿時代ぬり蓋あり後作らるる感し  
一蓋ハ二つ折をたてて少す物也二つ蓋より出ぬるハ  
志をむる也其を軍陣の時敵の大將の首を  
討て首を酒呑ぬる時又切腹ぬる人は酒のまぬる時  
も蓋二つ蓋より出て二献呑ぬる也常々二献を志す

け敷也 純子今世より今始に蓋二つ蓋より出ぬ  
多し 一物もあらず也

一婿礼の時夫婦の蓋とてその中より男を奪て女を奪り  
古法也男ハ陽女ハ陰也陽ハ貴く陰ハ賤く陽ハ陰ハ  
貴の事天地の道理也純子或は女子貴ハ男女の家  
の事其の夜を奪りて後秋夜追入る者これハ其の時女ハ其の  
家の事其の男ハ客人なる者女は奪りて男を奪りて其の  
婿の事其の女は奪りて男を奪りて女は奪りて其の婿の事  
此の事也一云は既ある事也用くも  
一ちがえの事しきものなり今時の人ハ其の事也

てしむべしと云

一酒も客人より神々中も事也客人のうへに辞退せし  
 事なき事なり神々中も事なり又客人より客なり客の時ハ敵  
 乃人左の酒をさけけおふなり客もさすも酒  
 けいなるも六種より出りつ事何れもかくの事なり  
 日記より云ふあり流るる我が事なり後しぬ物なき事  
 至若神々毒の心又ある事なりことハは役用なりす  
 一せしことなる大酒のりの時事神々も歳に少ぬ事也  
 客より事なり大酒のりの時事神々も歳に少ぬ事也

事累気小也但常事有る也  
 事累気小也但常事有る也  
 事累気小也但常事有る也  
 事累気小也但常事有る也

一酒の中後より今時あいに事あり事同る也大中と  
 其中をもむ人乃事を別人なり又中そのむ事也

一今佐利の事物を古六端よりひく事也むくハやきお乃  
 佐利なり以て端より佐り方あり事也

一柳橋より六種の事なり佐り方あり事也今ハ其の  
 本にことこの事なり事平りたるハのめり佐り方あり事也

一  
 本草綱目  
 神代  
 珠  
 丸  
 三  
 用  
 三  
 用  
 三  
 用

一柳橋より六種の事なり佐り方あり事也今ハ其の  
 本にことこの事なり事平りたるハのめり佐り方あり事也

見たり巻八樽柳櫻樽也曹植カ詩我有柳櫻ヲ孰之西王母如此

一兵庫  
柄  
ト云  
足  
柄

一 柳木やうう成木水執事あつた木やけは  
柄マウラの木やけてはぬ花柄マウラを用ひし也  
一 瓶子ビン提子ヒキ瓶子ビンあつた付蝶花形マウラの柄瓶ビンの庖丁人の此  
る也庖丁の流石マウラなりて柄形遠あつた瓶子ビンを  
てし形マウラもむもは是も同也我等傳へる  
蝶花形マウラの瓶ビンの柄形マウラの京形將軍の庖丁人大流  
乃柄形マウラなり

一 瓶子提子  
蝶花形  
乃柄形  
乃柄形

一 瓶子提子ビン蝶花形マウラを付るもハ蝶マウラのよちり目マウラにて  
系木の花の流石マウラをぬてのがなと柄形マウラもあつた  
乃柄形マウラなり

子孫  
蝶  
乃柄形

一 びのいむぎは腹マウラなりいひあどすりハようぬる  
也これハ人の蝶マウラの花の流石マウラをぬてあつたのいむぎ  
せよハ人の教マウラの流石マウラの蝶マウラの柄形マウラを付るもハ瓶子ビンの蝶  
花形マウラ付も同いむぎ

一 瓶子ビン一對マウラを蝶花形マウラを包む付流石マウラの左の方マウラに五ハ目蝶  
右の方マウラに五ハ目蝶也

一 糸マウラの書マウラは祝言マウラの時ハ瓶子ビンの口マウラを蝶花マウラくく包ます  
てハ包むハ花マウラの流石マウラハありハ瓶子提子ビンと瓶子ビン

一 一對マウラ蝶花形マウラハ流石マウラの流石マウラハ成也四ハ字マウラを包む流石  
一 瓶子の口マウラは包極マウラなるもハ形マウラを包むハありしれ

そりし水菱ハ水多き水底まもびこりきなりといひの  
 もかへつよきお也まびこりきなりかへつよきを後子用  
 危内と水底の持る菱の形を菱の形を包む也  
 一 繩子提子<sup>子</sup>の形の時松山たち花<sup>山たち花</sup>を蝶花形<sup>蝶花形</sup>に  
 て作りしお<sup>お</sup>はい<sup>は</sup>は<sup>は</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>り<sup>り</sup>す<sup>す</sup>ふ<sup>ふ</sup>年<sup>年</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>経<sup>経</sup>る<sup>る</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>山<sup>山</sup>たち  
 ち<sup>ち</sup>か<sup>か</sup>ハ<sup>ハ</sup>冬<sup>冬</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>雪<sup>雪</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>寒<sup>寒</sup>も<sup>も</sup>布<sup>布</sup>く<sup>く</sup>熟<sup>熟</sup>あ<sup>あ</sup>る  
 お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>二<sup>二</sup>束<sup>束</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>め<sup>め</sup>し<sup>し</sup>き<sup>き</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>菱<sup>菱</sup>の<sup>の</sup>用<sup>用</sup>也  
 一 繩子とそ<sup>そ</sup>一<sup>一</sup>束<sup>束</sup>二<sup>二</sup>枝<sup>枝</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>也<sup>也</sup>旧<sup>旧</sup>記<sup>記</sup>子<sup>子</sup>見<sup>見</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>す<sup>す</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>なり  
 一 繩子の<sup>の</sup>柄<sup>柄</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>也<sup>也</sup>室<sup>室</sup>の<sup>の</sup>将<sup>将</sup>軍<sup>軍</sup>殿<sup>殿</sup>中<sup>中</sup>の<sup>の</sup>  
 用<sup>用</sup>也<sup>也</sup>は<sup>は</sup>繩<sup>繩</sup>の<sup>の</sup>柄<sup>柄</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>也<sup>也</sup>大<sup>大</sup>學<sup>學</sup>流<sup>流</sup>石<sup>石</sup>之<sup>之</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>子

東鑑卷廿  
 内入片  
 口到子置下  
 折敷止金  
 子覆後  
 覆後蓋ト云  
 子未記ス  
 古今著聞  
 集卷十四  
 云白河院深  
 雪朝雪見  
 三卯辛アル

室部將軍家の唐丁人  
 大寺三郎元公以ノ記  
 繩子の柄を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>也<sup>也</sup>室<sup>室</sup>の<sup>の</sup>将<sup>将</sup>軍<sup>軍</sup>殿<sup>殿</sup>中<sup>中</sup>の<sup>の</sup>  
 用<sup>用</sup>也<sup>也</sup>は<sup>は</sup>繩<sup>繩</sup>の<sup>の</sup>柄<sup>柄</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>也<sup>也</sup>大<sup>大</sup>學<sup>學</sup>流<sup>流</sup>石<sup>石</sup>之<sup>之</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>子  
 一 吾の繩子ハ畧家也古殿中<sup>中</sup>よりハ汗<sup>汗</sup>を<sup>を</sup>用<sup>用</sup>られ<sup>れ</sup>也  
 一 奥板持系記云法<sup>法</sup>の<sup>の</sup>時<sup>時</sup>ハ片<sup>片</sup>ハ毎<sup>毎</sup>之<sup>之</sup>一<sup>一</sup>式<sup>式</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>云公  
 方<sup>方</sup>板<sup>板</sup>成<sup>成</sup>ち<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>多<sup>多</sup>う<sup>う</sup>時<sup>時</sup>ハ片<sup>片</sup>ハ毎<sup>毎</sup>之<sup>之</sup>一<sup>一</sup>式<sup>式</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>云公  
 口<sup>口</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>自<sup>自</sup>然<sup>然</sup>く<sup>く</sup>口<sup>口</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>自<sup>自</sup>然<sup>然</sup>く<sup>く</sup>口<sup>口</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>自<sup>自</sup>然<sup>然</sup>く<sup>く</sup>  
 一 口の包板を<sup>を</sup>他<sup>他</sup>流<sup>流</sup>の<sup>の</sup>木<sup>木</sup>の<sup>の</sup>糸<sup>糸</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>也<sup>也</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>云公  
 子<sup>子</sup>ル<sup>ル</sup>一<sup>一</sup>向<sup>向</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>り<sup>り</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>糸<sup>糸</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>也<sup>也</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>云公  
 而<sup>而</sup>其<sup>其</sup>時<sup>時</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>繩<sup>繩</sup>子<sup>子</sup>ハ<sup>ハ</sup>口<sup>口</sup>可<sup>可</sup>成<sup>成</sup>也<sup>也</sup>公<sup>公</sup>方<sup>方</sup>板<sup>板</sup>を<sup>を</sup>包<sup>包</sup>む<sup>む</sup>也<sup>也</sup>藤<sup>藤</sup>部<sup>部</sup>記<sup>記</sup>云公

右片ノカキノ  
 テウシトカモ  
 付テモロク  
 十ノテカシモ  
 右ヨリアリシ  
 コカヘシ  
 海邊ノカサミ  
 キタル三重ノ人  
 ヒトリノ折  
 敷ノ手盃  
 銀ノ四ニ金ノ  
 橋ノテカラ  
 モラレタルヲ  
 モチテケリ  
 入ルテケリ  
 ノテウシテ  
 ケラ今持  
 タリシ  
 右片ノカキノ  
 テウシトカモ  
 付テモロク  
 十ノテカシモ  
 右ヨリアリシ  
 コカヘシ

右口より内出するなり右口を用いたる乱防の時むり也  
 一 天野一花の日記にあり河内玉置の事あり  
 玉置集の道遠院の事あり  
 道遠院の事あり  
 額をよめる事あり  
 乃むことハ文をもちりき天守酒  
 川をくめて人のをぬりし事あり四月の事あり  
 云天野酒河内玉置の事あり  
 上り之  
 下りのけり  
 一 内々の酒と云ふ今あるは酒と云ふ同一又ヤ、之云

白トハ白めつキニ字五冊  
 按書ヨ白めつキニあり  
 白内  
 也出陣の時もその祝言あり  
 世々、只の祀子縁で皆とある事あり  
 右口ハ切腹の人の事あり  
 包をよめる事あり  
 包をよめる事あり  
 包をよめる事あり  
 包をよめる事あり  
 包をよめる事あり

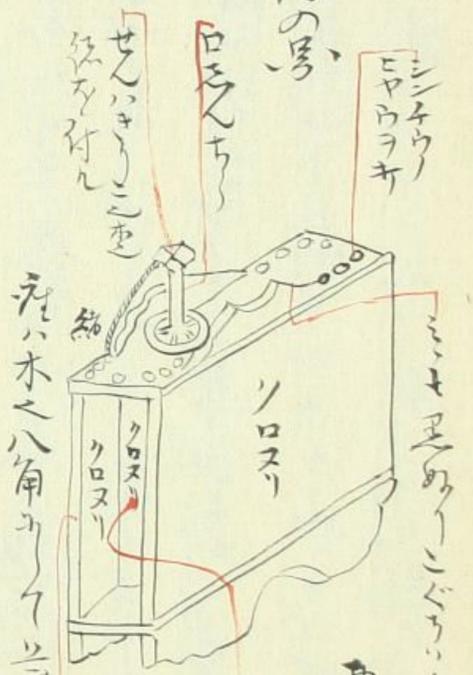
足ハ高武州師真代ヨリ京中ノ職人給之間如形不足ナシト云々

右口より内出するなり右口を用いたる乱防の時むり也  
 一 天野一花の日記にあり河内玉置の事あり  
 玉置集の道遠院の事あり  
 道遠院の事あり  
 額をよめる事あり  
 乃むことハ文をもちりき天守酒  
 川をくめて人のをぬりし事あり四月の事あり  
 云天野酒河内玉置の事あり  
 上り之  
 下りのけり  
 一 内々の酒と云ふ今あるは酒と云ふ同一又ヤ、之云

毎年二月十五日ノ朝日島山登り  
 將軍家ニ進上アリ  
 内國ノ島山ノ領地ニテアリシナリ



櫛の号



此の号の櫛は、  
 西暦是の、年七、  
 西暦是の、年七、

右の方の、  
 板の、

右の、  
 今、

一、  
 今、  
 一、  
 今、

一、  
 今、  
 一、  
 今、

一、  
 今、  
 一、  
 今、

一 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

一 けりけり物と云ふ大なるけりけりは酒の香をいふて出るといふ

今時神の香をいふて出るといふ也 今時神の香をいふて出るといふ也 臆記入るるをいふて

一 物のおりけり酒の香をいふて出るといふ也 物のおりけり酒の香をいふて出るといふ也

一 食籠のおりけり食籠の酒の香をいふて出るといふ也

一 瓶のおりけり星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

の致ある也又うばのふりも 是るうりてハ星の前

後まの傷をいふてハ星の前 傷の傷をいふてハ星の前

の星と云ふは星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

の星と云ふは星をいふて出るといふ也 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ 星のついでに星をいふはさうも陰に大なるをいふ

一 酒をいふると云ふ九献也九陽穀をいふと云ふ酒也 九陽穀をいふと云ふ酒也

九献のむね也九献と云ふハ唐土にあり 九献のむね也九献と云ふハ唐土にあり

十二年乃云楚子入享子鄭九献とありその註カキ

用上公之禮九献酒禮畢 用上公之禮九献酒禮畢

一 盃乃臺也とあり何れも三盃の物ハ是二つを人

乃方(向)けり也とあり古法也物も今ハ盃の臺をいふ

是二つを人の方(向)けり也とあり今ハ盃の臺をいふ

人ハ故字を知ず一ハ茶の友是二つ何れも世上一







覆ふやと云ハ雛子ハ母ノ身ヲ物也修リヨヲ名ナシノ類  
をヤシヨトモ修ヒ垂テヨリヤト云ルベシ

一 一ヨリ此物ハ修ケ 孫那乃那ニ記ス

蓬萊の  
子あり

蓬萊の意乃ヨ古もアリ 東鑑卷四九 正元二  
年唐 四月三日

庚子晴入御干入道陸奥守<sup>ミヤストコ</sup>仰息所<sup>ミヤストコ</sup>同車<sup>ミヤストコ</sup>中畧 仰息所<sup>ミヤストコ</sup>仰

方進風流<sup>カササウミ</sup>蓬<sup>カササウミ</sup>又鍾田草子<sup>カササウミ</sup>云君れこれ<sup>カササウミ</sup>の古<sup>カササウミ</sup>向<sup>カササウミ</sup>を

一 一<sup>カササウミ</sup>のめん<sup>カササウミ</sup>不<sup>カササウミ</sup>く<sup>カササウミ</sup>う<sup>カササウミ</sup>ん<sup>カササウミ</sup>け<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>そ<sup>カササウミ</sup>ん<sup>カササウミ</sup> 南世<sup>カササウミ</sup>も<sup>カササウミ</sup>や<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>ら<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>

ふみ君<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>い<sup>カササウミ</sup>も<sup>カササウミ</sup>ひ<sup>カササウミ</sup>や<sup>カササウミ</sup>さん<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>わ<sup>カササウミ</sup>ら<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>て<sup>カササウミ</sup>くら<sup>カササウミ</sup>み<sup>カササウミ</sup>よ<sup>カササウミ</sup>う<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>

よ<sup>カササウミ</sup>入<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>よ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>久<sup>カササウミ</sup>入<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>こ<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>け<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>山<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>

符<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>ぬ<sup>カササウミ</sup>又<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>聖<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>お<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>あ<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>お<sup>カササウミ</sup>ろ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ハ

一 今世<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>甚<sup>カササウミ</sup>ク<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>物<sup>カササウミ</sup>考<sup>カササウミ</sup>も<sup>カササウミ</sup>多<sup>カササウミ</sup>ク<sup>カササウミ</sup>古<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>形<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>蓬<sup>カササウミ</sup>萊<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>

形<sup>カササウミ</sup>乃<sup>カササウミ</sup>内<sup>カササウミ</sup>之<sup>カササウミ</sup>例<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>形<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>か<sup>カササウミ</sup>ば<sup>カササウミ</sup>身<sup>カササウミ</sup>身<sup>カササウミ</sup>板<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>中<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>也<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>れ

ハ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>出<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>形<sup>カササウミ</sup>右<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>思<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>か<sup>カササウミ</sup>く<sup>カササウミ</sup>か<sup>カササウミ</sup>く<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>例<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>され<sup>カササウミ</sup>也<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>形<sup>カササウミ</sup>ハ

例<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>し<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>有<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>思<sup>カササウミ</sup>未<sup>カササウミ</sup>だ<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>ハ

也<sup>カササウミ</sup>至<sup>カササウミ</sup>是<sup>カササウミ</sup>太<sup>カササウミ</sup>平<sup>カササウミ</sup>記<sup>カササウミ</sup>卷<sup>カササウミ</sup>廿<sup>カササウミ</sup>四<sup>カササウミ</sup> 天竺寺  
供養云<sup>カササウミ</sup>而<sup>カササウミ</sup>花<sup>カササウミ</sup>乃<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>形<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ハ

一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>大<sup>カササウミ</sup>井<sup>カササウミ</sup>川<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>系<sup>カササウミ</sup>流<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>表<sup>カササウミ</sup>し<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>水<sup>カササウミ</sup>紅<sup>カササウミ</sup>錦<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>て<sup>カササウミ</sup>感<sup>カササウミ</sup>身<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>也<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>

修<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>ナ<sup>カササウミ</sup>ク<sup>カササウミ</sup>ク<sup>カササウミ</sup>花<sup>カササウミ</sup>合<sup>カササウミ</sup>根<sup>カササウミ</sup>合<sup>カササウミ</sup>なり<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>花<sup>カササウミ</sup>色<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>物<sup>カササウミ</sup>ヲ<sup>カササウミ</sup>合<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ヲ<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>リ<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>與<sup>カササウミ</sup>セ<sup>カササウミ</sup>ラ<sup>カササウミ</sup>シ<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>其<sup>カササウミ</sup>合<sup>カササウミ</sup>セ<sup>カササウミ</sup>物<sup>カササウミ</sup>ヲ<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>多<sup>カササウミ</sup>ク<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>例<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>其<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>ヲ<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>レ<sup>カササウミ</sup>ニ<sup>カササウミ</sup>シ<sup>カササウミ</sup>テ<sup>カササウミ</sup>出<sup>カササウミ</sup>サ<sup>カササウミ</sup>レ<sup>カササウミ</sup>シ<sup>カササウミ</sup>ナ<sup>カササウミ</sup>リ<sup>カササウミ</sup>深<sup>カササウミ</sup>花<sup>カササウミ</sup>物<sup>カササウミ</sup>語<sup>カササウミ</sup>古<sup>カササウミ</sup>今<sup>カササウミ</sup>着<sup>カササウミ</sup>聞<sup>カササウミ</sup>其<sup>カササウミ</sup>外<sup>カササウミ</sup>右<sup>カササウミ</sup>手<sup>カササウミ</sup>物<sup>カササウミ</sup>語<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>人<sup>カササウミ</sup>々<sup>カササウミ</sup>々<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>長<sup>カササウミ</sup>キ<sup>カササウミ</sup>ユ<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>思<sup>カササウミ</sup>未<sup>カササウミ</sup>だ<sup>カササウミ</sup>修<sup>カササウミ</sup>る<sup>カササウミ</sup>ハ

一 大<sup>カササウミ</sup>井<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>と<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>ハ<sup>カササウミ</sup>一<sup>カササウミ</sup>ヨ<sup>カササウミ</sup>り<sup>カササウミ</sup>大<sup>カササウミ</sup>道<sup>カササウミ</sup>所<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>付<sup>カササウミ</sup>所<sup>カササウミ</sup>の<sup>カササウミ</sup>む<sup>カササウミ</sup>ゆ<sup>カササウミ</sup>を<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>也

捲<sup>カササウミ</sup>川<sup>カササウミ</sup>新<sup>カササウミ</sup>左<sup>カササウミ</sup>馬<sup>カササウミ</sup>耐<sup>カササウミ</sup>親<sup>カササウミ</sup>之<sup>カササウミ</sup>日<sup>カササウミ</sup>記<sup>カササウミ</sup>文<sup>カササウミ</sup>明<sup>カササウミ</sup>十<sup>カササウミ</sup>三<sup>カササウミ</sup>年<sup>カササウミ</sup>七<sup>カササウミ</sup>月<sup>カササウミ</sup>二<sup>カササウミ</sup>日<sup>カササウミ</sup>也<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>云<sup>カササウミ</sup>

永享空所  
行幸記云云  
返中並  
アリ別  
コ云ナリ







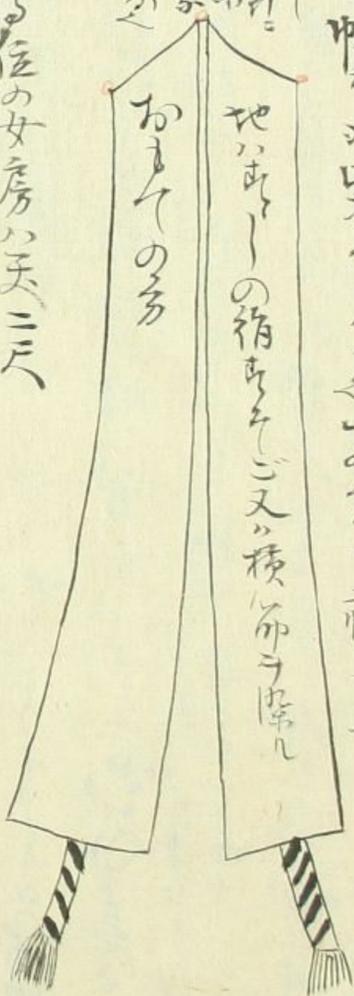
下あぐれの品

一幅をゆはぢやうくろくこあき方ニ二幅ニテ也

三角ノリ  
くろくこあき  
くろくこあき  
くろくこあき  
くろくこあき  
くろくこあき

地はあぐれの箱をこご又ハ横ハ布ヲ使ル

おまけのき



いまのつか

お長

き位女房ハ天ニ尺  
其次ハ一丈一尺ニ寸



くろくこあき

くしろをぬきおく

袋帯の口ミウク頭とぬきお  
袋帯のふくあぐく

いあのかち布ヲ使ル  
紅白又白黒

左

右

一 女まぬと云右の一丈一尺寸の下あぐれを三寸の内  
入るくぢぢぢぢの外よりけけるを云五尺の物にこ  
かよよハ女まぬもけぬ之下あぐれハき位の人かろく  
そかの人ハきまぬろく也九尺も前あめ物も也下  
あぐれハ十二尺もあめ物にこ一よりろく也

一 女こしのまめの次身十三尺ハ九尺ハ七尺ハ五尺ハ

あめ物入祀あり

布ニ四引タリ

一 此ゆえんの子捲川記ニ云ハ一の油草のりぬるこ  
まろくまろくす但旋の時ハくまろくも板こまろく  
ル公方極はこ一油草くけこれりも又及すり極を凡

此の事は、然るに、此の所記の事、一、此の所記の事、  
此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、

今世の事  
記す

一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、  
一、此の事、一、此の事、一、此の事、一、此の事、

今世の事  
記す



一ちよきんぬりこしのり也年中使大なる正威記

正威記に云く考めたるなりこしは正威記に云く考めたるなり

直聲と書くありしは正威記に云く考めたるなり

一横柳毛車將軍正威記に云く考めたるなり

車の色糸のりも横柳

と云ふ本の名もつておるなり

て横柳の糸のりも横柳の糸のり

用も也似るなり代り用は横柳の糸のり

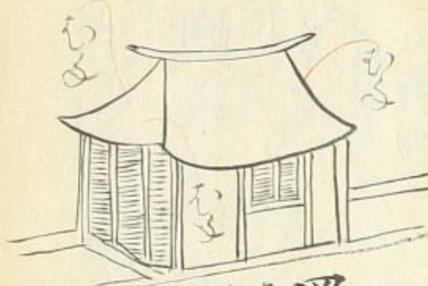
蒲葵葉の定りあり一糸扱改兼良公は依の批華葉葉と云書

時以用青簾縁 青濃下簾金銅金物之榻

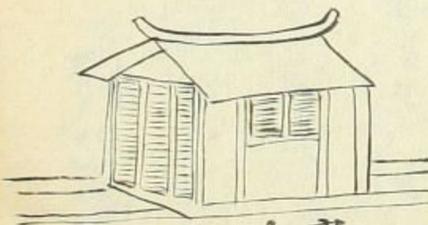
横柳ハ茶  
種ニ用ル横  
柳子ノ葉  
葵ト云フ木  
ノ葉也其木  
ト云ナリ

長クニハ  
カクモアリ

西宮記ニ云横柳毛大上皇以下四位以上通用云  
四方輿と云六名書置るなり  
記應永三年十一月二日の記文子自善法寺社系  
巾淨衣四方輿二人有役人淨衣とあり四方輿と名  
付るハ大上の色糸の四方子むしも云々あり



四方子ハ大上の色糸の四方子  
むしを考ふと四方子  
ハ大上の色糸の四方子  
ハ大上の色糸の四方子



考めたるなり  
考めたるなり

三宗西実代公

一三光院内府記云塗輿四方輿之代也當代八車之代

東山宮代

諸家之輿有廂僧兵武士六六廂云

一云物云輿車乃也名也保平盛裏記廿八乃云

友時氣重衛

中将悦友時云物云内裏

乃云物云

女房世もは思ふげもせめて

乃云物云

軍ぬめ云物云是車を云物云

一車共後云云云云下る云云云云盛裏記廿三乃云

輿云云云云云云云云云云

一今乃世乃云云云云云云云云云云

楯云云云云云云云云云云

又云云云

多云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

一塵取云物云輿乃類也日云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云

三人云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

云云云云

アタラシク  
前ニモシテ

一 あり又太平記卷十九 作去下 合殿イタテの痛イタテを

肩イタテのより多イタテの間イタテよりイタテ 赤イタテの塵イタテ取イタテの早イタテ目イタテを遠イタテ

乃イタテ海イタテ子イタテ成イタテりイタテ多イタテトイタテあり あをいなるくエをいそいひしりありたり  
あをいなるくエをいそいひしりありたり

一 あたのり又あをいそいひしり 太平記卷十九 信イタテ慶イタテの云イタテク

昂イタテ入イタテ道イタテをイタテ辨イタテりイタテ 字イタテをイタテ今イタテのイタテ奥イタテのイタテ帷イタテをイタテとイタテ引イタテ後イタテにイタテ下イタテるイタテ

